

人口減社会を考える

信州自治体学会 長野で26日フォーラム

県内の自治体職員や研究者、住民らでつくる信州自治体学会は26日、人口減少社会の在り方について考えるフォーラムを、長野市東町のSH INKOUJIホールで開く。福島大の今井照教授（自治体政策）を講師に招き、講演のほか善光寺門前の探訪、交流会を開く。

フォーラムでは午後1時半から、

今井教授が「人口減少社会における自治体とはなにか、住民とはなにか―『二重の住民登録』をめぐる』」をテーマに講演。東京電力福島第1原発事故の影響で避難している人や、都会と地方に住居を構える「二地域居住」をしている人から住民票登録の在り方などについて話す。

善光寺門前を探訪後、参加者の交流会を同ホールで開く。参加費は交流会費を含み、全国組織の自治体学会（東京）の会費は4千円、非会費は5千円（当日入会すると4千円）。定員30人になり次第締め切る。信州自治体学会のフェイスブックからか、長野市第1庁舎・市芸術館建設事務局の小池啓道さんにメール（koikenaganacity@yahoo.co.jp）で申し込む。

じょうほうぼうりょう 交差点